

「魔法のレシピはない。」

～ 城福 浩(FIFA U-17 WORLD CUP 2007 KOREA 日本代表監督)

「『人とボールが動く』サッカーを実現するために練習でどんなことをすればよいのか？」と聞かれて

今、日本サッカーの一つのキーワードに『人もボールも動く』があります。今回、U-17 日本代表は 12 年ぶりにアジアの頂点に立ち、世界大会に進出しました。城福ジャパンは、日本人のウィークポイント(弱点)をカバーすることで闘うのではなく、ストロングポイント(利点)をピッチで発揮することで闘いました。日本人の持久力・敏捷性・協調性・犠牲心・向上心を生かして、プレーする時間を長くして、ゲームの主導権を握り、アクションを起こしていくサッカー。その一つが『人とボールが動く』です。オシムジャパンでも、流れるようにボールと人が動くサッカーが見られ、日本の方向性の一つとなっています。

城福ジャパンは、1 年半の準備期間の中でこの『人とボールが動く』に取り組みました。キャンプでは時間が掛かることをやる、やり続ける。目に見えるような進歩はないことが多いけれど、チーム作りに「魔法のレシピは存在しない。」のです。30 以上あるkey factor(キーファクター:テーマを支える一つ一つの技術や戦術など)を整理する等々、同じことを繰り返していきました。その結果、12 年ぶりに世界大会の扉を開いたのです。(オシムに言わせると「もっとも世界と差のある年代」の世界大会です。)

個人的にも感じるのですが、攻撃を作り上げることは非常に時間も手間も掛かるということです。(ここで言う攻撃とは、当たり前ですが、偶然や相手のミスによるものではなく、チームが狙いを持ってボールを運び、得点を上げることです。)ゲームの中で『人とボールが動く』を実現させるためには、プロセス(道筋)が必要です。また、そのベースとなる技術を身につけるためには、まさしく「魔法のレシピはない。」のです。今、日本代表の攻撃を支えている高い技術は、日々のトレーニングに支えられています。それもユース年代からの大いなる積み上げによるものです。しかし、この年代の日本が誇るべき技術も世界のtoptop(ナイジェリアやフランスなど)には、まだまだ差があることもまた事実です。日本も進歩しているが、世界はもっと進歩している。我々指導者も立ち止まっている時間はありません。

最後に城福監督は、毎日グラウンドに立ち、その選手たちを支えている指導者に感謝の言葉を述べ、今後の日本のサッカーが発展していくために指導者が必要であることを改めて伝えていました。

釧路にいると「世界」は、遠い別世界のお話に聞こえるかもしれませんが、どこにいてもサッカーの真実にかわりはありません。

技術・戦術的な課題やサッカーを取り巻く環境については、講習会の中で具体的な話をしています。お気軽のご参加ください。

